

平成30年度第2回北広島市緑のまちづくり審議会

日 時：平成30年9月18日（火） 18時30分～19時38分

場 所：北広島市役所 5階委員会室

◇北広島市緑のまちづくり審議会委員

出席者 柿 澤 委員（会長）
愛 甲 委員
荒 井 委員
金 子 委員（職務代理者）
蕪 木 委員
川 瀬 委員
佐 藤 委員
下屋敷 委員

欠席者 なし

◇事務局 川 村 企画財政部長
平 川 都市計画課長
川 口 都市計画課主査
中 島 都市計画課主事
加 我 都市計画課技師

◇説明員 柴 ボールパーク推進課長
杉 原 ボールパーク推進課主査
中 垣 ボールパーク施設課長
織 田 ボールパーク施設課主査
村 上 ボールパーク施設課主査
金 澤 ボールパーク施設課主任

◇傍聴者 4人

《議事概要》

1 開会

2 説明員の紹介

3 議事録署名委員の指名

4 議事

(1) 報告案件

◆ 1 緑の基本計画策定について

：資料1をもとに事務局から報告

【質問・意見】

A委員：アンケートの人数 3,000 人というのは前回と同等くらいの数なのか。

事務局：前は2,000人で、今回は3,000人と考えている。

B委員：緑の基本計画の上位計画となる総合計画や関連計画の都市計画マスタープランの改定スケジュールとのタイミングや関係性はどうなるのか。

事務局：スケジュール的には少し遅れて、総合計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画といった順で策定を進める考えである。

B委員：北海道の広域緑地計画や一部近隣市町村も改定を行っているため、それらとも連携を図るべきではないか。

事務局：近隣市町村との連携は皆様の意見をいただきながら連携し、心がけていきたい。

B委員：今回はワークショップのような機会は作らないのか。

事務局：ワークショップについては、それぞれの計画を作成する際に様々な展開を考えているので、緑の基本計画では行わないということではなく、うまくその内容から緑に関連することを絡ませて皆様に情報共有できるよう意識していきたい。

B委員：現計画の目標値の達成状況評価はどのくらいの時期に行うのか。

事務局：目標年次である平成32年度の目標値は達成できる見込みである。また、年度ごとに施策の評価を行っていき、基本計画へ反映していくよう検討を進めたい。

会 長：アンケートの中身について、審議委員の意見を求めるような機会は現状考えていないのか。

事務局：アンケートの内容については皆様にお知らせし、意見をいただきたいと考えている。

- ◆ 2 ボールパーク構想について
：資料 2 をもとに説明員から報告

【質問・意見】

なし

- ◆ 3 ボールパーク構想に係る環境影響調査について
：資料 3 をもとに説明員から報告

【質問・意見】

C委員：コドラート調査の結果について、どういった蜜源植物がいるのか興味がある。

説明員：調査結果が出てから、報告させていただく。

B委員：調査対象となっている野幌原始林とは配布資料 2 ページの図の飛び地のうち上の 2 つという理解で問題ないか。

説明員：問題ない。

B委員：調査結果については、運動公園内だけのデータではなく、3 か所すべて混ざっている調査結果であり、場所ごとに分けて種の名前だけ並べている状況ということでよろしいか。

説明員：はい。

B委員：野幌原始林が 3 か所の飛び地として特別天然記念物に指定された経緯を教えてください。

説明員：もともとは広く指定されていたが、台風による倒木があり、残ったのがこの 3 か所である。

B委員：ボールパークとして使われる部分は公園でなくなってしまうということなのか。

説明員：球場部分は公園施設となり、現在想定している商業施設などの一部については、公園外の区域となる想定である。

B委員：その場合都市計画公園から外すような手続きをする可能性があるということか。

説明員：その可能性がある。

B委員：環境調査やボールパーク構想が進むうえで、この審議会の役割はどういったものになっていくのか。

説明員：審議会の役割である諮問答申を経て結論を出すということではなく、環境に関する有識者から意見をいただき、行政側で最終的な判断をさせていただきたい。

事務局：大きなプロジェクトであるため、多様な意見を聞きながら作

業を進めていきたい。皆様の疑問点や指摘事項を持ち帰り、またその後の経過を報告するという作業を繰り返していきたいので、ご意見等をいただきたいという目的で動いている。

D委員：この調査は自主的に行っているものなのか。法律や条例との関係性を知りたい。

説明員：自主的なものである。今後の説明資料ということも含めて現在環境調査を行っている。

D委員：環境アセスメントの関係には該当しないのか。

説明員：環境アセスメントの対象事業ではない。

D委員：特別開発行為などの許認可には、特に環境調査を伴うようなものではないのか。

説明員：許認可はないため、そういった対象事業ではない。

D委員：現地調査だけでなく、過去の文献やこの場所に関わってきた方々へヒアリング等の調査もしてみてもどうか。

説明員：資料収集は行っており、過去に市でも調査を行っているのでもそういった資料も参考に事業を進めている。

D委員：自然環境の他に騒音や交通量については調査を行っているのか。

説明員：現在は行っていない。交通量については今後想定されるものについて解析を行っていく。騒音については、建設予定地付近の施設へ説明を行った。

D委員：今後騒音や交通量が急激に増えると考えているのか。

説明員：道路の設計の中で検討していきたい。騒音については、例えば植樹帯の設置などが対策として考えられる。

会 長：調査の中で、河川・溪流関係はどのように扱われていくのか。

説明員：水量等の状況を見ながら水質検査なども考えていきたい。

会 長：道路周辺の土地利用のコントロールについては、現状の市街化調整区域としてコントロールをするのか、それとも上乘せの規制のようなものを考えているのか。

事務局：交通量が増えると土地利用の話も出てくるかと思うが、特別天然記念物への影響も考えられるため、今後検討していきたい。

8 その他

事務局から次回の審議会開催予定などを説明。

9 閉会